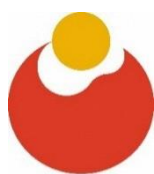


“幸せを運ぶコウノトリ”と共生する まちづくりビジョン



平成31年3月 策定

令和6年3月 改訂



雲南市



幸せを運ぶコウノトリと
共生するまちづくり
雲南市

内容

はじめに.....	1
I. ビジョン策定の背景.....	3
1. コウノトリ.....	3
2. 生物多様性の保全.....	3
3. コウノトリと雲南市.....	4
4. 条例制定とネイチャーポジティブ宣言※.....	6
II. ビジョン策定の目的.....	8
III. ビジョンの位置づけと期間.....	8
1. ビジョンの位置づけ.....	8
2. ビジョンの期間.....	8
IV. 基本方針.....	9
V. 個別の方針.....	10
コウノトリの保護に関する基本的な取り組み.....	10
1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり.....	11
(1) 学習・情報発信.....	11
(2) 生きものを育む農業の推進.....	12
(3) 生物多様性の保全.....	13
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環.....	15
(1) 産業分野での活用.....	15
(2) イメージの活用.....	16
3. 継続的な活動を支える仕組み.....	17
VI. ビジョン推進に向けて.....	18
VII. 資料編.....	20

はじめに

日本は弥生時代以来、水田農業で発展してきました。平成8年に出土した加茂岩倉遺跡の39個の銅鐸の一部には、シカやトンボなどが描かれており、当時の自然環境の豊かさが表れています。古来、五穀豊穡は人々の願いであり、今でも様々な祭事が各地域で脈々と受け継がれています。

雲南市ではたたら製鉄の遺構も各地にみられ、その跡地は棚田となって水田農業が広がり、たたら製鉄による産業の発展とともに人々の生活の営みを支えてきました。菅谷たたら山内は当時の姿をそのまま今に伝えています。

このように、雲南市の産業や人々の営みを支えてきた中心は水田農業であり、現在も雲南市の一次産業の中心となっています。しかし近年、農業の後継者不足が深刻になってきており、耕作放棄地が増加してきています。豊かな自然環境を必要とするコウノトリの飛来・営巣は、私達にこうした状況への警鐘を鳴らしているようにも思えます。

コウノトリは未来からの使者のように私達に様々なことを教えてくれます。本ビジョンは、コウノトリを象徴として、今後どのようなまちづくりが必要かをまとめたものです。



～コウノトリの魅力～

雲南市には、ホタルや特別天然記念物のオオサンショウウオなどの様々な希少生物が生息していますが、コウノトリの飛来・営巣はそうしたものの以上に人々を魅了しています。

なぜ、コウノトリはそこまで人々を魅了するのかを考えてみると、次の3つの要素が挙げられます。

①希少価値（特別天然記念物等）

コウノトリ（コウノトリ目コウノトリ科）は、特別天然記念物、国内希少野生動物種、環境省レッドリスト・絶滅危惧ⅠA類(CR)（ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）に指定されています。

②視覚的効果（わかりやすさ）

コウノトリは翼を拡げると約2 mにもなる大型水鳥で、視覚的にわかりやすいという特徴があります。

③良いイメージ（赤ちゃんや幸せを運ぶ伝承）

コウノトリは、赤ちゃんや幸せを運ぶ鳥として想起する人がたくさんいます。これはヨーロッパを中心に生息する「シュバシコウ」（コウノトリ目コウノトリ科）の伝承が日本に伝わったもので、そのイメージが広く浸透しています。

コウノトリはこれらの3つの要素を兼ね備えており、人々を魅了しています。

雲南市は、人の^{さち}幸、自然の^{さち}幸、歴史の^{さち}幸、食の^{さち}幸が豊かであり、これは日本の豊かさでもあります。雲南市では、「幸運なんです。雲南です。」をキャッチフレーズに「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を進めています。コウノトリのイメージは雲南市のまちづくりに合致するものであり、コウノトリが与えてくれたチャンスを活かし、本ビジョンに基づきまちづくりに活かしていきます。

（雲南市ブランドメッセージ）

**幸運なんです。
雲南です。**

わたしたちの雲南市には
実にさまざまな幸があふれています。
美しい日本の原風景、自然の幸。
神話に彩られた史跡や文化遺産…歴史の幸。
毎日が新鮮、たわやかな食の幸。
そして親（ちか）しく交わされる笑顔、人の幸。
変化が求められる時代に、
これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して
このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。

I. ビジョン策定の背景

1. コウノトリ

コウノトリは、大型の淡水魚をはじめ、ヘビやバッタまで、多様な餌をとる肉食の鳥です。野生での絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧種となっています。

かつて日本にはコウノトリがたくさん生息していましたが、1971年に国内個体群が絶滅しました。その後、平成17年（2005年）から兵庫県立コウノトリの郷公園が実施してきた野生復帰事業により、最後の生息地であった兵庫県北部の但馬地域を中心に繁殖個体群が復活しつつあります。（出典：「兵庫県立コウノトリの郷公園」パンフレット）

コウノトリが住みやすい環境は、豊かな生物多様性があるものとして全国各地で環境保全やまちづくりの指標・シンボルになっています。

2. 生物多様性の保全

「生物多様性」とは、「生きものたちの豊かな個性とつながり」（環境省ホームページより）と表現されています。生命は全て支えあって生きており、生物多様性を保全することにより人間もより豊かな営みができると考えられています。

雲南市においても、以前よりホタルの保護・普及啓発活動や特別天然記念物であるオオサンショウウオなどの保護に取り組んできました。

平成30年3月に策定した第2次雲南市環境基本計画においては、「自然と共に生きる」を基本目標の一つに定め、生きものや自然環境と共に生きていることを意識し、その保存と活用に努めていくことが重要であるとしています。

生物多様性に関する国際的な取り組みも進んでいます。2022年12月に開催された国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）において「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」が採択されました。2050年ビジョン「自然と共生する世界」に向け、2030年のミッションとして「自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急行動をとる」ことが掲げられています。

これを踏まえて日本でも令和5年3月に「生物多様性国家戦略 2023－2030」が閣議決定されました。2030年ネイチャーポジティブ（自然再興）※¹の実現に向け、5つの基本戦略とそれぞれの状態目標、行動目標が設定されています（下図）。

生物多様性国家戦略 2023-2030



出典：環境省

3. コウノトリと雲南市

コウノトリは、平成17年（2005年）から豊岡市で放鳥が始まりました。平成21年（2009年）3月には雲南市内でコウノトリ（個体番号※²：J0006）が飛来した最初の記録が確認されています。

その後も継続的にコウノトリの飛来が確認されていますが、平成29年（2017年）春に「げんきくん（個体番号：J0118）」と「ななちゃん※³（個体番号：J0047）」のペアが雲南市大東町大東下分で営巣をはじめ、4羽のヒナがかえりました。これは、豊岡市を含む但

※1 ネイチャーポジティブ（自然再興）：生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることを意味します。2030年までに「ネイチャーポジティブ（自然再興）」を実現することが、2050年ビジョンの達成に向けた短期目標です。「2030年ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現に向けて、人類存続の基盤としての健全な生態系を確保し、生態系による恵みを維持し回復させ、自然資本を守り活かす社会経済活動を広げるために、これまでの生物多様性保全施策に加えて気候変動や資源循環等の様々な分野の施策と連携し取り組みます。（2030生物多様性枠組実現日本会議ホームページより）

※2 個体番号：放鳥したコウノトリと野外で巣立ちしたコウノトリには、個体を識別するために、個体番号が書かれた足環と、異なる組合せの色の足環をそれぞれの個体につけています。

※3 「ななちゃん」という愛称は、西小学校の児童が命名して広がったもの。

馬地域周辺、徳島県鳴門市に続く国内3例目で、雲南市の豊かな自然環境を証明することとなりました。

しかし、その後母鳥「ななちゃん」がハンターの誤射により死亡したため、4羽のヒナは兵庫県立コウノトリの郷公園で保護されることとなりました。無事に成長したヒナは、平成29年（2017年）7月に雲南市大東町養賀で放鳥されましたが、市民にとってコウノトリを大切にする気持ちがより強くなるきっかけとなりました。



平成29年（2017年）7月 保護されたコウノトリの放鳥



「げんきくん」とヒナ

翌平成30年（2018年）春には「げんきくん」が「ポンスニ（個体番号：J0051）」と前年と同じ場所で営巣し、自然営巣で国内最多の4羽が巣立つという新たな記録を残すことになり、あらためて雲南市の自然環境の豊かさを証明するとともに継続的な営巣が期待できる状況となりました。

平成31年（2019年）から「げんきくん」と「ポンスニ」は西小学校の校庭に設置した人工巣塔で営巣するようになり、令和5年（2023年）までの5年連続で毎年3～4羽のヒナが巣立ちました。雲南市内で平成29年（2017年）から7年連続で営巣が続いており、市民にとってより身近で大切な存在として認知されるようになっていきます。

こうした状況で、市ではコウノトリが住みやすい環境づくりに向け、平成29年（2017年）12月には、「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会（事務局：国土交通省出雲河川事務所）」に加入し、地域の方をはじめ、専門家や行政関係者で、意見交換を重ねています。

隣接する出雲市は、平成23年（2011年）から特別天然記念物のトキの分散飼育が行われ、令和2年（2020年）には放鳥候補地に指定されています。コウノトリとトキは、食性や生息環境が類似し、市域を越える広い生息域を利用することから、この二種を一体的なシンボルとした自然再生と地域振興を推進することを目的に、平成31年（2019年）に島根県、出雲

市、雲南市が共同事務局となり「出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、両市共同による取り組みを推進しています。

市内の一部の小学校や図書館ではコウノトリを活用した学習が始まり、地元では地域を挙げて生息環境を守る活動が自発的に始まるなど、コウノトリとの共生や活用に関する期待が高まる中、平成31年3月にこの「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン」を、令和2年2月にはビジョンの実現に向けた具体的な行動計画となる「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりアクションプラン」を策定したところです。

4. 条例制定とネイチャーポジティブ宣言※4

さらに、令和5年（2023年）3月には、コウノトリを保護しつつ、豊かな自然環境の保全、再生に取り組み、コウノトリと共生する雲南市を未来に継承していくため、「雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例」を制定しています。

（雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例 前文）

物コウノトリは、豊かな自然環境の保全や再生のシンボルとなっている鳥です。これは、コウノトリが日本国内では野生から一度姿を消したものの、多くの人々の永年の努力により繁殖に成功し、野生復帰に向けた試験放鳥が始まり、その後、各地で個体数が徐々に増えているという歴史があるからです。

雲南市においては、試験放鳥の数年後から、コウノトリが飛来する姿が見られるようになりました。そして、平成29年（2017年）には、雲南市でもコウノトリの営巣が始まりました。これは、先人たちから大切に受け継がれてきた田んぼを始めとする里地里山や河川などに多様な生きものが数多く生息する豊かな自然環境があったことが大きな要因の一つと考えられています。

コウノトリの営巣は、私たちがコウノトリのこと、生態系のこと、そして生物多様性や自然環境について、より深く学び、行動するきっかけとなるだけでなく、コウノトリと共生するまちづくりによって農産品や加工品の高付加価値化やイメージの向上など、様々な恵みをもたらします。

ここに、コウノトリを保護するとともに、コウノトリと共生する豊かな雲南市にしてい
くため、雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例を制定します。

（全文は巻末に掲載。）

雲南市では、前述の「生物多様性国家戦略 2023－2030」の趣旨に賛同し、本条例に基づき「雲南市ネイチャーポジティブ宣言」を発し、コウノトリをシンボルとした生物多様性の保全に積極的に取り組みます。

※4 ネイチャーポジティブ宣言：ネイチャーポジティブの実現に向けた活動を表明すること。「2030 生物多様性枠組実現日本会議（環境省）」が、企業、地方公共団体、NGO等に発出を呼びかけている。



雲南市 ネイチャーポジティブ宣言

雲南市は、「雲南市コウノトリの保護及び共生に関するまちづくり条例」に基づき、企業、団体、市民とともにネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みを推進することを宣言します。

令和 6年 3月29日

雲南市長 石 飛 厚 志



幸せを運ぶコウノトリと
共生するまちづくり
雲南市

Ⅱ．ビジョン策定の目的

このビジョンは、市内外の共感と協力を得ながらコウノトリが継続的に営巣できる自然豊かな環境づくりに取り組み、コウノトリによってもたらされる恵みを活用して、雲南市総合計画に定めるまちづくりの基本理念「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を実現していくとともに、雲南市のブランド価値の向上を図ることを目的に策定するものです。

Ⅲ．ビジョンの位置づけと期間

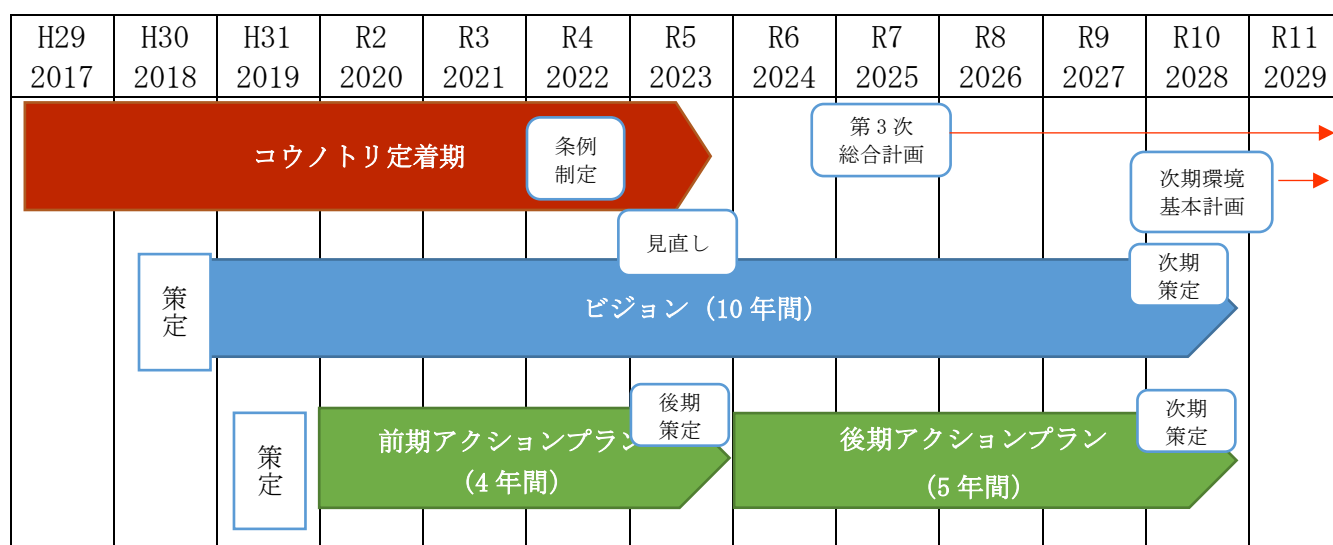
1．ビジョンの位置づけ

このビジョンは「雲南市総合計画」、「第2次雲南市環境基本計画」（平成29年度策定）や「第2次雲南市産業振興ビジョン」（平成26年度策定）などの各種計画の効果をより高めようとするもので、「雲南市まちづくり基本条例」に基づき、協働により取り組んでいくことを基本としています。

2．ビジョンの期間

平成31年度（2019年度）から令和10年度（2028年度）までの10年間とします。策定から5年経過した令和5年度（2023年度）に見直しを行いました。

また、本ビジョンを具体化し着実に実行するため、アクションプランを策定します。アクションプランは前期（令和2～5年度）と後期（令和6～10年度）に区分することとし、後期アクションプランは令和5年度（2023年度）に策定するものとします。



IV. 基本方針

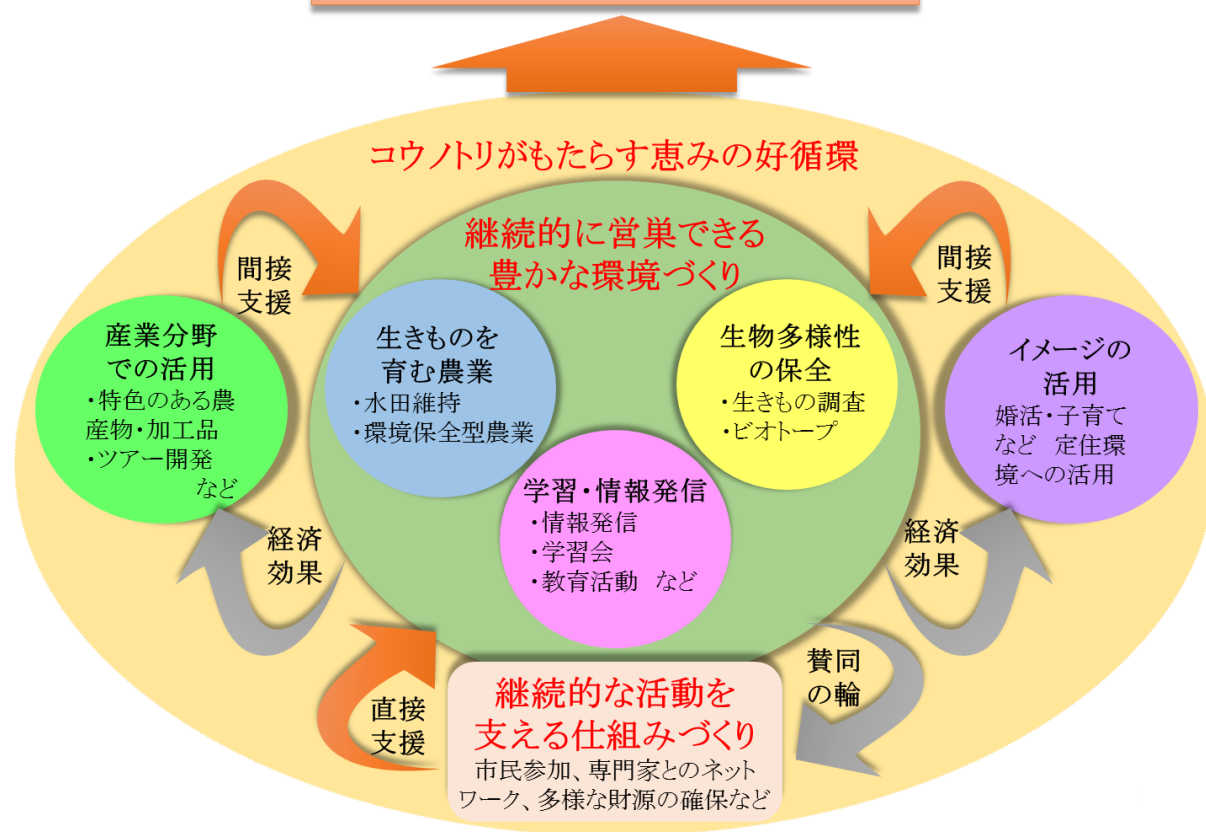
“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり

以上の基本方針に基づき“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくりを進め、雲南市のブランド価値の向上を図ります。

“幸せを運ぶコウノトリ” と共生するまちづくり 全体イメージ

雲南市のブランド価値の向上



V. 個別の方針

コウノトリの保護に関する基本的な取り組み

特別天然記念物であるコウノトリを保護するための基本的な取り組みとして、専門機関や関係団体の指導及び協力の下で、営巣時の観察や足環装着を実施します。自然環境の保全や観察ルールの周知、水辺環境の整備などにより、コウノトリが安全に生息できる環境づくりに取り組みます。有害鳥獣対策に関しては、関係団体等と今後も慎重に検討していきます。コウノトリの愛称募集も継続します。

-
- ①営巣時の観察や足環装着を実施します。
 - ②観察ルールについて広く周知します。
 - ③自然環境保護や不法投棄防止を啓発し、パトロールや水質検査を実施します。
 - ④水鳥の生息に適した斐伊川等の護岸や河川敷を整備します
 - ⑤コウノトリのヒナに公募により愛称をつけます。

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり

コウノトリが継続的に営巣するためには、雲南市の豊かな自然環境を保全していくこととともにコウノトリが安全に生息できる環境づくりが重要です。コウノトリや生物多様性に関する理解を広げ、深めるための学習会や情報発信等に取り組みます。また、核となる取り組みとして多種多様な生きものを育む農業を推進します。そして、その状況を評価するための調査などにより、生物多様性の保全に取り組みます。

(1) 学習・情報発信

コウノトリの生態や観察マナーをはじめ、生物多様性について、学習会の開催や情報発信をし、関心や知識を高めます。

- ①生物多様性に関する学習会を開催します。
- ②小中学校等で、生物多様性を学ぶ機会を設けます。
- ③コウノトリに関する情報を積極的に発信します。

コラム 雲南市立西小学校の取組「げんきくんとひな達応援プロジェクト」

雲南市立西小学校は、春殖地区と幡屋地区の子どもたちが通う学校です。

平成29年5月からスタートしたこのプロジェクトは、コウノトリ「げんきくん」とその子どもたちを先生として、生きものへの愛着、生命の神秘、自然の素晴らしさ、生態系、人と生きものとの関わりや共存、ふるさと愛などを育むプロジェクトです。詳しくは西小学校ホームページをご覧ください。

取組の一例

●一人一枝運動

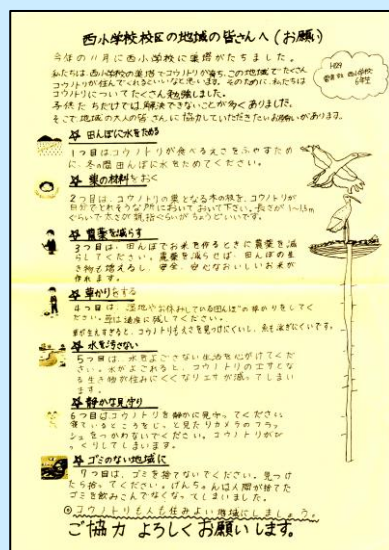
コウノトリのペアが巣作りしやすいように、巣の材料となる枝を校庭に集める。

●チラシ配布、ポスター掲示

コウノトリが住みやすい環境づくりの協力を呼びかける手書きのチラシやポスターを校区内外へ配布・掲示

●チャレンジ田んぼ

人にもコウノトリにも安全・安心な田んぼづくりに挑戦。平成30年9月には、コウノトリが餌をついばむ姿も確認されました。



校区内全戸に配布した手書きのチラシ



(2) 生きものを育む農業の推進

雲南市には、棚田などの耕作に労力を要する水田が多くありますが、農家の努力によって受け継がれてきたことが、コウノトリの飛来・営巣につながったと考えられます。

今後もコウノトリが継続的に営巣していくためには、水田農業を維持していくことが重要です。特に山際の水田で主に見られる水田の中の溝「よけじ」や、ため池が多くの水生生物の棲みかとなっており、生物多様性における重要な役割を果たしています。その上で中干しの時期の調整や環境に配慮した農業を推進します。

①生物多様性を育む水田農業を維持します。

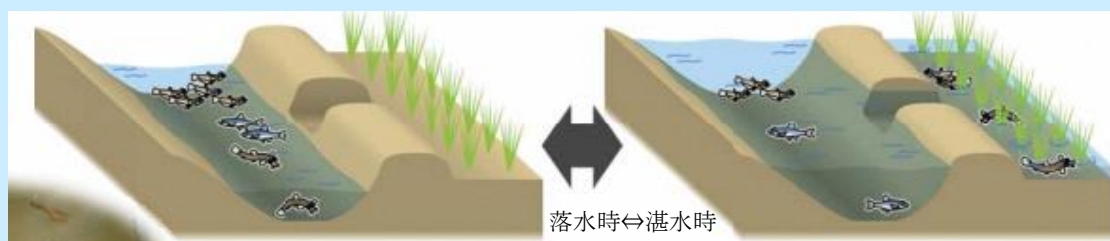
②環境に配慮した農業を推進します。

コラム 「よけじ」ってなに？

「よけじ」は排水促進や用水を温める目的で掘られた水田内の溝です。

この溝には、入水前や落水後にも水が溜まっていることが多いため、さまざまな水生生物が水田に水がない時期の生息場所として利用しています。

「よけじ」という呼称は主に大東町の一部地域で使われている慣習的表現です。



出典：「水田生態系の保全に視点をおいた整備技術の解説書」（農水省）より

（３）生物多様性の保全

コウノトリや生物多様性を育む取り組みには、科学的な調査や分析が欠かせません。このため、専門家や地域自主組織、学校などと連携し、コウノトリの行動分析や水田・ビオトープ※⁵の生きもの調査を実施します。また、それらの結果を公表していきます。

耕作困難な農地については、他の農地への悪影響も懸念されることから、耕起・水張りなどにより復田できるような管理（ビオトープ化）を推進します。

ネイチャーポジティブの実現に向けて、「30by30」※⁶などの行動目標に取り組みます。

-
- ①専門家によるコウノトリや生物多様性に関する調査を行います。
 - ②地域自主組織や学校などと連携し、水田やビオトープでの生きもの調査を実施します。
 - ③耕作困難な農地のビオトープ化を推進します。
 - ④ＯＥＣＭ※⁷の設定など、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みを推進します。

※5 ビオトープ：生きものの生息地の意味。動物や植物が恒常的に生活できるように造成又は復元された場所を指すことが多い。生きものの種類によって、様々な種類のビオトープが存在する。

※6 30by30：2030年までに陸と海の30%以上を保全する新たな世界目標。ネイチャーポジティブ実現のための行動目標の一つ。

※7 ＯＥＣＭ：Other Effective area-based Conservation Measures の略。保護地域以外で生物多様性保全に資する地域のこと。30by30の達成にあたっては、法律等に基づく国立公園等の保護地域に加えて、ＯＥＣＭの設定が重要とされる。国は、ＯＥＣＭ設定の推進のため、民間の所有地等を「自然共生サイト」として認定している。

コラム 「コウノトリは田んぼの苗を踏むのか？」

(資料提供：兵庫県立コウノトリの郷公園)

コウノトリは、主に水田で餌を採る生きものです。田植え後には、せっかく植えた苗をコウノトリが踏んでいるのではないかと雲南市の農家の間でも話題になっています。

兵庫県豊岡市周辺で平成 17 年度から平成 19 年度にコウノトリの水田における行動、特に田植え後の踏み付け等の水稻作に及ぼす影響について調査されていますので、その結果の概要をご紹介します。



1. コウノトリは苗をわざと踏みつけない

コウノトリが舞い降りる田んぼでは、田植え後に苗の踏み付けがありますが、コウノトリが苗をわざと踏みつけているところは見られませんでした。

2. 踏みつけられた株の全てが、生育に影響を受けるわけではない。

平成 18 年度の調査では、踏みつけられた 25 株のうち 19 株は周辺と同程度に生育し、6 株も生育は小さいものの回復しました。平成 19 年度の調査においても、踏みつけられた 17 株のうち 13 株は周辺株と同程度に生育したことを確認しました。

3. コウノトリが苗を踏みつける可能性及びその影響

1 羽のコウノトリが踏みつける苗は、調査結果から試算すると 1 時間当たり 3～6 株となります。踏みつけられた株の一部は欠株になる恐れがありますが、欠株が発生した場合でも周辺株が補償するため、欠株がそのまま減収につながることは少ないと推測されます。

2. コウノトリがもたらす恵みの好循環

コウノトリは、「赤ちゃん」や「幸せ」を運ぶ鳥といったイメージが広く浸透しています。コウノトリをはじめとする生物多様性を育む取り組みは、経済などにも好影響をもたらすことが考えられます。継続的な取り組みを行うためにも、コウノトリによってもたらされる恵みの積極的な活用による好循環を生み出します。

(1) 産業分野での活用

コウノトリや生物多様性を育む取り組みの中で生産される農産物については、その理念、労力、ストーリーなどを消費者に伝えることにより、付加価値の高い農産物等となるよう推進します。さらに、雲南市商工会等との連携により、それらの農産物を活用した商品開発を進めます。

また、専門家のアドバイスのもと、雲南市観光協会等と連携し、コウノトリや生物多様性を育む取り組みを学ぶ教育旅行誘致を推進します。

- ①生物多様性を育む農産品のブランド化※⁸を推進します。
- ②雲南市商工会等による生物多様性を育む農産物を活用した商品開発を支援します。
- ③一般社団法人雲南市観光協会等による教育旅行誘致やガイド育成を推進します。

※8 ブランド化：ここでは、ネーミングやデザインだけではなく、情報発信によりその価値が消費者に認知をされている状態を指します。

(2) イメージの活用

コウノトリは、赤ちゃんや幸せを運ぶ鳥としてとても良いイメージを持っている鳥です。環境関連をはじめ、定住や子育てなどの分野においてもコウノトリのイメージを幅広く活用していきます。

①令和2年度に作成した「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり」のロゴマークを当ビジョンの推進や環境保全に関する分野で活用します。



②コウノトリなど、生物多様性を育むイメージを定住や子育てなど様々な分野で活用します。

コラム 「コウノトリデザインのオリジナル出生届」

お子さんの誕生を祝福する気持ちを込めてコウノトリデザインのオリジナル出生届けを作成し、令和4年5月12日から使用を開始しています。市役所の窓口等で受け取ることができます。

- ・雲南市役所本庁（市民生活課）
- ・各総合センター（市民福祉課・市民サポート課）
- ・雲南市立病院（雲南市立病院で出産される方は希望されればこの届出書をご使用いただけます）



3. 継続的な活動を支える仕組み

生物多様性を育む活動を継続していくためには、多くの方々の参画や支援が必要となります。取り組みの状況や成果を広く公開し、共感者を増やします。併せて、市民や企業等が参加し主役となって支えていきます。

また、様々な活動がより効果的に連携できるよう専門機関や関係団体等とのネットワークを活用します。

さらに、ふるさと納税やクラウドファンディング※⁹などによる多様な財源を活用し、コウノトリや生物多様性を育む活動を資金面で支えていきます。

- ①市のホームページでコウノトリや生物多様性に関する活動を積極的に発信し、共感者を増やします。
- ②市民や企業等が参加し、主役となって支えていきます。
- ③専門機関や関係団体等とのネットワークを活用します。
- ④継続的な活動ができるよう、多様な財源を活用し、支えていきます。

コラム 「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の取組

斐伊川水系は、中国山地から出雲平野へと流れ出る斐伊川や神戸川を始め、ラムサール条約登録湿地の宍道湖・中海など、国際的にも著名な水辺環境に恵まれた流域により構成され、我が国を代表する「ガン類」「ハクチョウ類」「ツル類」「コウノトリ」「トキ」等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有する国内有数の一級水系です。

そこで、国土交通省出雲河川事務所が事務局となり、中海・宍道湖沿岸の5市（米子市、境港市、松江市、出雲市、安来市）を中心に、関係行政機関・団体、専門家から構成される「斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」を平成27年に設立し、大型水鳥類が生息しやすい環境づくりと地域活性化を目指した取り組みを進めてきました。

平成29年に雲南市で「コウノトリ」の営巣や繁殖活動が確認されたことを踏まえ、平成29年10月に1市2町（雲南市、奥出雲町、飯南町）等を加え、新たな体制で協議会の活動を再出発することとなりました。

※9 クラウドファンディング：不特定多数の人がインターネット等経由で、共感するほかの組織等に資金提供や協力などを行うこと。

VI. ビジョン推進に向けて

本ビジョンを実現していくため、平成 31 年度（2019 年度）にアクションプラン（行動計画）を策定し、取り組んできました。令和 6 年度（2024 年度）から令和 10 年度（2028 年度）までのビジョン後期に向け、後期アクションプランを策定して取り組みます。

（前期）アクションプラン（令和 2 年度～5 年度）の概要

基本方針（ビジョン）			事業
コウノトリの保護に関する基本的な取り組み			①保護活動
			②観察ルール周知
			③自然環境の保護
			④水辺環境の整備
			⑤愛称募集
1. コウノトリが継続的に 営巣できる豊かな環境 づくり	(1) 学習・情報発信	コウノトリに関する情報を積極的に発信します	⑥市報等での情報発信
		市民がコウノトリや生物多様性を学ぶ機会を促進します	⑦定点カメラの活用
		学校等で、生物多様性を学ぶ機会を設けます	⑧施設等での展示
	(2) 生きものを育む農業の推進	生物多様性を育む水田農業を維持します	⑨学習会の開催
		環境に配慮した農業を推進します	⑩団体等による学習会の開催の支援
			⑪生きものに関する学習の推進
			⑫水田農業の維持・推進
	(3) 生物多様性の保全	専門家によるコウノトリや生物多様性に関する調査を行います	⑬冬季湛水※10等の推進
		耕作困難な農地のビオトープ化を推進します	⑭よけじ※11の保全・設置啓発
			⑮減農薬・有機農業等の推進
			⑯生息環境に関する調査
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環	(1) イメージの活用	コウノトリと共生するまちづくりを表すデザインを作成します	⑰調査・研究の積極的な受け入れ
	(2) 産業分野での活用	農産品のブランド化を推奨します	⑱デザイン作成・活用促進
		生物多様性を育む農産品を活用した商品開発を支援します	⑳生きものを育む農業の取組の情報発信
		観察ツアー等の開発やガイド育成を推進します	㉑農商工連携協議会との連携による商品開発促進
			㉒ガイドの育成
			㉓ガイドツアーの商品化

※10 冬季湛水：稲刈りが終わった水田に冬期も水を張る農法。雑草の抑制効果等のほか、生物多様性を高める効果があるため、水鳥の生息環境として重要な役割があるとされる。

※11 よけじ：排水促進や用水を温める目的で掘られた水田内の溝。この溝には、入水前や落水後にも水が溜まっていることが多いため、様々な水生生物が水田に水がない時期の生息場所として利用する。「よけじ」という呼称は主に大東町の一部地域で使われている慣習的表現。

基本方針（ビジョン）		事業
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり	市民や企業等が参加し、主役となって支えていきます	㊹市民・団体等の協力体制の拡大
	継続的な活動ができるよう、多様な財源を活用し、支えていきます	㊺クラウドファンディング型ふるさと納税の導入
		㊻コウノトリ関連の商品の収益の循環
	専門機関や関係団体等とのネットワークを形成します	㊼専門機関・関係団体との連携
	進行管理により、アクションプランを着実に実施します	㊽事業の進行管理

VII. 資料編

資料 1. コウノトリについて

(1) コウノトリ

【鳥類分類】 コウノトリ目 コウノトリ科 コウノトリ属 コウノトリ種

【学名】 キコニア・ボイキアナ (和名：コウノトリ)

【生息地】 ロシア・中国・台湾・韓国・日本

(2) 保護上の位置付け

【文化財保護法】

特別天然記念物（天然記念物の中でも特に重要なもの）

【環境レッドリスト】

絶滅危惧ⅠA類（ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高い）

(3) コウノトリの絶滅と復帰

昭和 40 年（1965 年）	コウノトリ人工飼育の始まり
昭和 46 年（1971 年）	日本の野外でコウノトリが絶滅
平成元年（1989 年）	人工繁殖に成功
平成 11 年（1999 年）	「兵庫県立コウノトリ郷公園」が開園
平成 17 年（2005 年）	コウノトリ試験放鳥はじまる
平成 19 年（2007 年）	野外でヒナ誕生・巣立ち（国内で 46 年ぶり）
平成 24 年（2012 年）	初めて豊岡市外で繁殖。放鳥 3 世の誕生

資料 2. 雲南市とコウノトリの関係

(1) 雲南市内のコウノトリに関する動き (一覧)

近年の雲南市内におけるコウノトリと雲南市内の動きをまとめました。

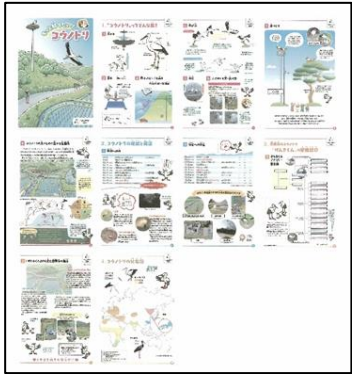
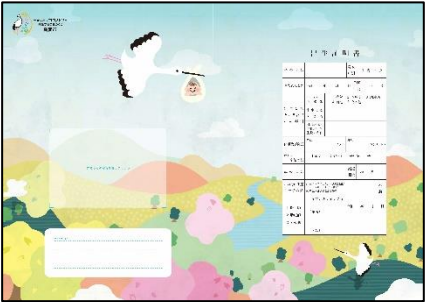
年	月 日	内 容
平成 29 年 (2017 年)	3 月 16 日	コウノトリが雲南市内で初めて大東町大東下分の電柱で造巢開始。J0118「げんきくん」と J0047「ななちゃん」のペア
	3 月 30 日	産卵確認
	4 月 26 日	ふ化 (4 羽)
	5 月 19 日	ななちゃん(J0047)死亡
	5 月 21 日	ヒナを保護
	5 月	西小学校で「げんきくんとひな達応援プロジェクト」が開始
	7 月 7 日	愛称決定 (一般応募数 206)
	7 月 12 日	ヒナを放鳥
	10 月 30 日	雲南市が「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」加盟
	11 月 2 日	春殖地区振興協議会が雲南市へ「コウノトリと共生するまちづくり」のための指定寄附
	11 月 28 日	西小学校校庭に人工巣塔を設置
	12 月 26 日	「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 地域づくり部会 雲南圏域ワーキング」(以下、「雲南圏域ワーキング」)の開催
平成 30 年 (2018 年)	2 月 19 日	J0118「げんきくん」と J0051「ポンスニ」が大東町大東下分の前年と同じ電柱で造巢 (雲南市内 2 年目)
	3 月 10 日	産卵確認
	4 月 13 日	ふ化 (4 羽)
	5 月 25 日	足環装着
	6 月 8 日	西小学校児童が市長に対し、コウノトリ学習の成果を発表するとともにヒナの愛称をつけたいと要望。今後、営巣地の小学校で半分、残りは市民公募とすることに決定
	6 月 24 日	巣立ち (4 羽目)
	6 月 29 日	愛称決定 (一般応募数 120)
	10 月 23 日	加茂町神原地内に市内 2 基目となる人工巣塔を設置

年	月 日	内 容
	11 月 11 日	「第 1 回雲南市環境会議」にて兵庫県立コウノトリの郷公園園長の山岸氏が同年 9 月 15 日に発行された「げんきくん物語」について講演
	11 月 22 日	「雲南圏域ワーキング」の開催 コウノトリと共生するまちづくりビジョン（案）について
平成 31 年 令和元年 (2019 年)	1 月 27 日	「コウノトリの会春殖」設立
	1 月 28 日	「雲南圏域ワーキング」の開催 島根県、出雲市、雲南市による「出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会」設立、第 1 回会議開催
	2 月 9 日	「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり学習会」開催 講師：地域力創造アドバイザー 大和田順子 氏
	2 月 12 日	J0118「げんきくん」と J0051「ポンスニ」が西小学校の人工巣塔で造巢（雲南市内で 3 年目、西小の巣塔で 1 年目）
	3 月 4 日	産卵確認
	3 月末	“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン策定
	4 月 8 日	ふ化推定(4 羽)
	5 月 20 日	足環装着
	6 月 18 日	巣立ち（4 羽目）
	6 月 20 日	愛称決定（一般応募数 107）
	7 月 5 日	第 2 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	8 月 9 日	「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり学習会」開催 講師：NPO 法人田んぼ代表理事 船橋玲二 氏
	8 月下旬～	大正大学人間学部人間環境学科との連携により「コウノトリに関する意識調査（アンケート）」実施
	11 月 23 日	コウノトリやトキと共生するまちづくりシンポジウム「大型水鳥が教えてくれるふるさとの魅力」 基調講演：「環境革命の時代に コウノトリとトキが出雲・雲南にもたらすもの」 講 師：東京都市大学特別教授 涌井史郎氏 主 催：出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会
	12 月 18 日	第 3 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催

年	月 日	内 容
	12 月末	J0118「げんきくん」とJ0051「ポンスニ」が、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で4年目、西小の巣塔で2年目）
令和2年 (2020年)	2 月	“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりアクションプラン策定
	3 月 15 日 ～16 日	初卵推定日
		本格的抱卵開始日
	3 月 17 日	第4回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	4 月 18 日	親鳥の「餌の吐出し」と「食べ戻し」を確認（ふ化の推定）
	5 月 7 日	ヒナの頭数（4羽）が確定
	6 月 1 日	足環装着
	6 月 4 日	ヒナの雌雄判明（4羽ともメス）
		J0306「にしき」、J0305「みこと」、J0304「みくも」の巣立ちを確認
	6 月 23 日	コウノトリ愛称提案会。西小学校6年生児童17人が速水市長と景山教育長にこれまで取り組んできた内容や考えた愛称を選考理由とともに提案。
	6 月 30 日	愛称決定（一般応募数100）。新型コロナのため、選考委員の意見を参考に市長が決定。
	7 月 1 日	J0303「ゆい」の巣立ちを確認
	7 月上旬	第5回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催（書面議決）
	8 月 26 日	第6回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	10 月 17 日	自然体験イベント「田んぼで生きものの探し」（西小学校チャレンジ田んぼ）【出雲・雲南協議会】
	10 月 22 日	ビオトープづくり学習会（泉谷モデルビオトープ）【出雲・雲南協議会】
	12 月 13 日	地域振興意見交換会【出雲・雲南協議会】
令和3年 (2021年)	1 月 20 日	「幸せを運ぶコウノトリ」と共生するまちづくりロゴマーク決定、利用開始 

年	月 日	内 容
	1 月 20 日	第 7 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	1 月	げんきくんとポンスニが、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巢を開始する（雲南市内で 5 年目、西小の巣塔で 3 年目）
	2 月 18 日	第 8 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	3 月 11 日	初卵推定
	3 月 13 日	本格抱卵開始
	4 月 14 日	ふ化（雲南市内 5 年連続）
	4 月	出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会で検討してきた「出雲・雲南地域生物多様性連携保全活動計画」を策定。
	4 月 30 日	羽数確定 4 羽
	5 月	雲南市観光協会がコウノトリロゴを活かしたオリジナルポロシャツ販売を開始。累計 411 枚販売 
	5 月 26 日	足環装着
	5 月 29 日	雌雄判明
	6 月 19 日	J0360「はなび」の巣立ちを確認
	6 月 21 日	J0358「瑞花」の巣立ちを確認
	6 月 24 日	コウノトリ愛称提案会。西小学校 6 年生児童が石飛市長と景山教育長にこれまで取り組んできた内容や愛称を選考理由とともに提案。 その場で市長が、市民公募の愛称も同時に発表（応募総数 98 件）
	6 月 25 日	J0361「西楽」の巣立ちを確認
	6 月 26 日	J0359「栞愛」の巣立ちを確認
	6 月 30 日	第 9 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催（書面議決）
	9 月 23 日	技術士会との意見交換【出雲・雲南協議会】

年	月 日	内 容
	10 月 17 日	自然体験イベント「田んぼで生きもの探し」【出雲・雲南協議会】（西小学校チャレンジ田んぼ） 
	10 月 31 日	「第 6 回コウノトリ未来・国際かいぎ」（主催：兵庫県・豊岡市）に西小学校の 6 年生 7 人と大東高校生上代美瑚さんが参加（オンライン） 
	11 月 23 日	学習会【出雲・雲南協議会】 ①講演「鳥たちが教えてくれる地域の豊かさのひみつ」 講師 日本野鳥の会 副会長 佐藤仁志 氏 ②取組紹介（オンライン） 豊岡市コウノトリ共生課 宮垣均氏 （木次経済文化会館チェリヴァホール） 
	12 月 21 日	コウノトリ市民バスお披露目式。西小学校児童が描いた 9 点のコウノトリを春殖線の市民バスにラッピング。車内には、西小学校のコウノトリの学習の取組やコウノトリに関するクイズを掲示 

年	月 日	内 容
令和 4 年 (2022 年)	12 月	出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会のホームページ作成
	10～12 月	ふるさと納税（クラウドファンディング）実施。975,500 円
	1 月 13 日	第 10 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	1 月 13 日	体験型交流イベントに関する研修・意見交換【出雲・雲南協議会】
	1 月	J0118「げんきくん」と J0051「ポンスニ」が、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で 6 年目、西小の巣塔で 4 年目）
	2 月 22 日	第 11 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催（書面による意見募集）
	3 月 11 日	初卵推定
	3 月 13 日	本格抱卵開始
	3 月	「コウノトリまなびパネル」作成。10 連のパネルでコウノトリの生態等をわかりやすくまとめている。執筆・編集は「キコニアまなびネット」
		
	4 月 14 日	ふ化（雲南市内 6 年連続）
	5 月	雲南市観光協会がコウノトリロゴを活かしたオリジナルポロシャツ販売（2 年目）。累計 324 枚販売
	5 月 12 日	羽数確定 4 羽
	5 月 12 日	雲南市オリジナルコウノトリデザイン出生届運用開始
		
	5 月 12 日	第 9 回 斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会（くにびきメッセ）
	5 月 24 日	足環装着

年	月 日	内 容
	5 月 25 日	第 1 回 雲南市コウノトリとの共生に関する条例検討会議
	6 月 1 日	雌雄判明
	6 月 2 日	第 12 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	6 月 18 日	J0440「八雲」と J0438「四輝」の巣立ちを確認
	6 月 20 日	コウノトリ愛称提案会。西小学校 6 年生児童（33 名）が石飛市長と景山教育長に学習や取組みを紹介し、愛称を選考理由とともに提案。 その場で市長が、市民公募の愛称も同時に発表（応募総数 121 件 69 名※今年度から一人 2 点応募可）
	6 月 24 日	J0439「志」の巣立ちを確認
	6 月 25 日	J0441「飛貴」の巣立ちを確認
	7 月 20 日	第 2 回 雲南市コウノトリとの共生に関する条例検討会
	9 月 7 日	第 3 回 雲南市コウノトリとの共生に関する条例検討会
	10 月 6 日	第 4 回 雲南市コウノトリとの共生に関する条例検討会
	11 月 23 日	第 5 回 雲南市コウノトリとの共生に関する条例検討会
	11 月 30 日	学習会（加茂交流センター） ①講演Ⅰ コウノトリ「げんきくん」のおはなし 講師 キコニアまなびネット 代表 和田邦子 氏 ②講演Ⅱ コウノトリの野生復帰が目指すところ 講師 公立大学法人兵庫県立大学大学院 地域マネジメント研究科 准教授 出口智広 氏 ③報告 コウノトリに関する条例の検討状況 参加者数 23 人
令和 5 年 (2023 年)	1 月	J0118「げんきくん」と J0051「ポンスニ」が、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で 7 年目、西小の巣塔で 5 年目）
	1 月 16 日	第 13 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	1 月 16 日	2 台目・3 台目となるコウノトリ市民バスお披露目式。新たに西小学校児童が描いたイラストを採用。

年	月 日	内 容
	2 月 9 日	島根県立大東高校 2 年生が成果発表会（探究アワード 2022）においてコウノトリ啓発ポスター案を提案。
	2 月 24 日	「幸せを運ぶコウノトリ学習会」地域自主組織日登の郷と市の共催で開催。 講演 コウノトリ「げんきくん」のおはなし 講師 キコニアまなびネット 代表 和田邦子 氏
	3 月 9 日	第 6 回（最終）雲南市コウノトリとの共生に関する条例検討会 初卵推定
	3 月 12 日	本格抱卵開始
	3 月 14 日	第 14 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	3 月 22 日	㈱カイハツが雲南市のコウノトリの保護活動に対する人的支援をすることを市長に申し入れ。令和 5 年度より出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会の泉谷ビオトープでの作業に参加予定。
	3 月 23 日	「雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例」施行
	4 月 12 日	ふ化（雲南市内 7 年連続）
	5 月 12 日	羽数確定 3 羽
	5 月 26 日	足環装着
	6 月 1 日	第 15 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
	6 月 1 日	雌雄判明
	6 月 15 日	J0534「美羽」の巣立ちを確認
	6 月 18 日	J0536「叶彩」の巣立ちを確認
	6 月 20 日	J0535「ホープ」の巣立ちを確認
	6 月 21 日	コウノトリ愛称提案会。西小学校 6 年生児童（20 名）が石飛市長と景山教育長に学習や取り組みを紹介し、愛称を選考理由とともに提案。 その場で市長が、市民公募の愛称も同時に発表（応募総数 51 件 33 名）。
	7 月 30 日	モデル集落の幡屋地区大多和でヒツジグサ観察会を開催。佐藤仁志さんを講師に、地元住民らがヒツジグサやイヌタヌキモ、ゲンゴロウのなかまなどの希少生物を観察した。
	7 月下旬～	大正大学人間学部人間環境学科との連携により「コウノトリに関する意識調査（アンケート）」実施。

年	月 日	内 容
	8 月 27 日	(株)カイハツがモデル集落・春殖大月谷の休耕田の草刈り作業に参加。
	11 月 3 日	泉谷ビオトープで「田んぼで生きもの探し」を開催。市内外から 7 組の親子が参加。
	11 月 30 日	第 16 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
令和 6 年 (2024 年)	1 月	J0118「げんきくん」と J0051「ポンスニ」が、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で 8 年目、西小の巣塔で 6 年目）
	3 月 1 日	日登交流センターに人工巣塔を設置（市内 3 基目）
	3 月 3 日	初卵推定（西小学校巣塔）
	3 月 5 日	本格抱卵開始（西小学校巣塔）
	3 月 16 日	大東交流センターに人工巣塔を設置（市内 4 基目）
	3 月 19 日	第 17 回 出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会 開催
		J0284 と J0353 の新しいペアが、大東交流センターの人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で 2 組目）
	3 月 29 日	初卵推定（大東交流センター巣塔）
	3 月 30 日	本格抱卵開始（大東交流センター巣塔）

(2) 繁殖の状況とヒナの愛称

1年目：平成29年（2017年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0047「ななちゃん」（西小学校児童の呼称）

場所：大東町大東下分の電柱

月 日	内容
2017年3月16日	造巢
3月30日	産卵確認
4月26日	ふ化
5月19日	誤射により J0047「ななちゃん」死亡
5月21日	4羽のヒナを保護
7月12日	4羽のヒナ J0196「春希くん」、J0174「うららくん」、J0175「姫ちゃん」、J0176「げんちゃん」を放鳥
8月8日	J0176「げんちゃん」の死亡を確認
2018年7月25日～	J0175「姫ちゃん」行方不明

●平成29年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和5年4月7日現在）

個体番号	愛称	足環の色	性別	備考
J0173	春希くん	左：緑青、右：黄黄	オス	公募
	原光夫、錦織清、上代富江、児玉英雄 コウノトリが子育てに選んでくれた春殖地区、その「春殖の希望」			
J0174	うららくん	左：緑緑、右：黄黄	オス	公募
	上代和美 春殖の春にかけて、「春うらら」を連想し、大空をゆったり飛ぶ姿を思い浮かべて			
J0175	姫ちゃん	左：黒黒、右：黄赤	メス	西小 2018.7.25 行方不明
	出雲神話に登場する「イナダヒメ」から命名。			
J0176	げんちゃん	左：黒黄、右：黄赤	オス	西小 2017.8.8 死亡
	おとうさん鳥の「げんきくん」から名前をもらいました。			

2 年目：平成 30 年（2018 年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0051「ポンスニ」

場所：大東町大東下分の電柱（平成 29 年と同じ場所）

月 日	内容
2018 年 2 月 19 日	造巢
3 月 10 日	産卵確認
4 月 13 日	ふ化
5 月 25 日	足環装着
6 月 18 日	J0198「永遠」巣立ち
6 月 21 日	J0197「らいむ」巣立ちを確認
6 月 22 日	J0199「きらら」巣立ちを確認
6 月 24 日	J0196「はるか」巣立ちを確認
12 月 6 日～	J0199「きらら」行方不明
2019 年 10 月 30 日～	J0198「永遠」行方不明

●平成 30 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 5 年 4 月 7 日現在）

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0196	はるか	左：緑黄、右：黄赤	メス	公募
	井田満、小笠原裕子、高橋儀政 遥かな大空に向かって飛び立ってほしい。春殖で生れて悠々と空を飛んでね。			
J0197	らいむ	左：緑赤、右：黄赤	メス	公募
	岩佐道子 「来夢」来年もこの地で夢と元気をいただきたい。			
J0198	永遠（とわ）	左：緑青、右：黄赤	メス	西小 2019. 10. 30 行方不明
	世界の自然がいつまでも豊かでコウノトリやほかの生き物たち、人々がいるまでも幸せに暮らせるようになってほしい。雲南市に永遠にコウノトリがいてくれるようお願いをこめて			
J0199	きらら	左：緑緑、右：黄赤	メス	西小 2018. 12. 06 行方不明
	希望をもって、大空に羽ばたいてほしい。きらきら輝いて、みんなに見つけてもらって、もっと親しんでほしい。			

3 年 目：平成 31 年、令和元年（2019 年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0051「ポンスニ」

場所：大東町仁和寺 雲南市立西小学校の人工巣塔

月 日	内容
2019 年 2 月 12 日	造巢
3 月 4 日	産卵確認
4 月 8 日	ふ化推定
5 月 20 日	足環装着
6 月 13 日	J0234「いぶき」 巣立ち
6 月 18 日	J0231「れいな」、J0233「ほのか」、J0235「あおば」 巣立ち
2020 年 1 月 9 日～	J0234「いぶき」 行方不明

●平成 31 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 5 年 4 月 7 日現在）

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0231	れいな	左：黄黄、右：黄緑	メス	公募
	今岡玲七、川島あゆり、谷戸仁子、藤原愛生、吉木雪子 「令和」のコウノトリ。新時代の代表として羽ばたいてほしい。れいわの「れい」とうんなんの「な」。 など			
J0233	ほのか	左：黄青、右：黄緑	メス	公募
	匿名 田んぼで餌を採っているコウノトリの姿を見ると緑の中でほのぼのと美しく可愛らしい。			
J0234	いぶき	左：黄緑、右：黄緑	オス	西小 2020. 1. 9 行方不明
	春の息吹のイメージ。いきいきと力強く生きてほしい。次の春、また、この土地で新しい命が芽吹いてほしいという願いを込めて。			
J0235	あおば	左：赤黒、右：黄緑	メス	西小
	蒼葉。蒼々とした空を自由に飛び回り豊かな自然の中で青葉のように力強く元気に育ってほしいという願いを込めて。			

4 年目：令和 2 年（2020 年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0051「ポンスニ」

場所：大東町仁和寺 雲南市立西小学校の人工巣塔

月 日	内容
令和元年 12 月末	げんきくんとポンスニが、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巢を開始する
令和 2 年 3 月 15～ 16 日	初卵推定日
3 月 17 日	本格的抱卵開始日
4 月 18 日	ふ化の推定。親鳥の「餌の吐出し」「食べ戻し」を確認
5 月 7 日	羽数確定 4 羽
6 月 1 日	足環装着
6 月 23 日	J0306「にしき」、J0305「みこと」、J0304「みくも」の巣立ちを確認
6 月 27 日	J0303「ゆい」の巣立ちを確認
10 月 20 日～	J0303「ゆい」行方不明

●令和 2 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 5 年 4 月 7 日現在）

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0303	ゆい	左：黒青 右：赤赤	メス	公募、3 名 2020. 10. 20 行方不明
	船木和江（大東町）、吉岡菜々子（吉田町）、佐々木濤（大東町） 「人との結びつきができていくなっている中、良い結びつきがとても大切。 コウノトリと結ばれてほしい など			
J0304	みくも	左：黒緑 右：赤赤	メス	公募、1 名
	山根陽子（木次町） みくも＝美雲。美しい雲南市の風景。美しい雲のたなびく雲南の空を元気よく飛んでほしい。			
J0305	みこと	左：黄黒 右：赤赤	メス	西小
	みこと＝命。コウノトリの命を大切にしたいから。島根の神様には「命」の字が入っており、その意味もこめて			
J0306	にしき	左：黄黄 右：赤赤	メス	西小
	西小の「にし」が入っている。にしきには美しいという意味があるからコウノトリにぴったり。			

5 年目：令和 3 年（2021 年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0051「ポンスニ」

場所：大東町仁和寺 雲南市立西小学校の人工巣塔

月 日	内容
1 月	げんきくんとポンスニが、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で 5 年目、西小の巣塔で 3 年目）
3 月 11 日	初卵推定
3 月 13 日	本格抱卵開始
4 月 14 日	ふ化（雲南市内 5 年連続）
4 月 30 日	羽数確定 4 羽
5 月 26 日	足環装着
5 月 29 日	雌雄判明
6 月 19 日	J0360「はなび」の巣立ちを確認
6 月 21 日	J0358「瑞花」の巣立ちを確認
6 月 25 日	J0361「西楽」の巣立ちを確認
6 月 26 日	J0359「栞愛」の巣立ちを確認

●令和 3 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 5 年 4 月 7 日現在）

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0358	瑞花（ずいか）	左：黄-青 右：赤-緑	メス	公募
	原めぐみ（大東町） 瑞にはおめでたいという意味があります。雪の降る中、赤川でしっかりとたたずんでいる姿を見かけ、雪の別名でもあるものから選びました。見かけたコウノトリのように育ててほしいので。			
J0359	栞愛（かんな）	左：黄-緑 右：赤-緑	オス	公募 2022. 11. 21 行方不明
	長妻美保子（大東町） 栞＝案内書・目印、愛＝いつくしむ、いとし、まな、大切に。この鳥を見つけることで、雲南市をいつくしむ印としていつまでも愛され続ける鳥であってほしいとの心を込めて。			
J0360	はなび	左：赤-黒 右：赤-緑	メス	西小
	コロナの影響で、花火を見る機会が減ってしまったけど、花火を見上げるようにコウノトリの「はなびちゃん」を見上げることができるといい。花火が私たちに幸せを与えるように、コウノトリも私たちに幸せを与えてくれるから。			
J0361	西楽（せいら）	左：赤 - 黄 右：赤-緑	オス	西小
	西は西小の西。楽は楽しい人生を送ってほしいという願いを込めている。西小を楽しく盛り上げてくれる存在になってほしい。西小といえばコウノトリというように、西小のシンボルになってほしい。			

6 年目：令和 4 年（2022 年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0051「ポンスニ」

場所：大東町仁和寺 雲南市立西小学校の人工巣塔

月 日	内容
1 月	げんきくんとポンスニが、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巢を開始する（雲南市内で 6 年目、西小の巣塔で 4 年目）
3 月 11 日	初卵推定
3 月 13 日	本格抱卵開始
4 月 14 日	ふ化（雲南市内 6 年連続）
5 月 12 日	羽数確定 4 羽
5 月 24 日	足環装着
6 月 1 日	雌雄判明
6 月 18 日	J0440「八雲」、J0438「四輝」の巣立ちを確認
6 月 24 日	J0439「志」の巣立ちを確認
6 月 25 日	J0441「飛貴」の巣立ちを確認

●令和 4 年生まれのヒナ（「足環カタログ」より、令和 5 年 4 月 7 日現在）

個体番号	愛称	足環	性別	備考
J0438	四輝（しき）	左：赤-青 右：青-赤	オス	西小
	4 羽のヒナにかがやいてほしいから。星のようにキラキラしてほしいから。4 羽のヒナがいろいろなところに飛び立ってほしいから。			
J0439	志（ふみ）	左：赤-緑 右：青-赤	オス	西小
	「志」という漢字には、ころざしやある目標に向かう気持ち、記憶する、相手を思う気持ちという意味がある。前向きな言葉しかないのがすごいなと思った。ヒナにもこの字の意味のように西小のことを記憶してほしいと思ったから。			
J0440	八雲（やくも）	左：青-黒 右：青-赤	メス	公募
	藤原峰子（大東町） 日本最古の和歌とされ「古事記」にも出てくる「八雲」。美しい山里のすがすがしい雲を思わせる			
J0441	飛貴（ひだか）	左：緑 右：赤	オス	公募
	村松佳奈（木次町） 「飛」には空を飛び空中をかける。「貴」には大切、貴重、栄えるの意味があって「大空を自由にはばたく鳥で気品があって貴い希望へと導く」という意味をこめました。			

7年目：令和5年（2023年）の繁殖

ペア：J0118「げんきくん」、J0051「ポンスニ」

場所：大東町仁和寺 雲南市立西小学校の人工巣塔

月 日	内容
1 月	げんきくんとポンスニが、雲南市立西小学校の人工巣塔で造巣を開始する（雲南市内で7年目、西小の巣塔で5年目）
3 月 9 日	初卵推定
3 月 12 日	本格抱卵開始
4 月 12 日	ふ化（雲南市内7年連続）
5 月 12 日	羽数確定 3羽
5 月 26 日	足環装着
6 月 1 日	雌雄判明
6 月 15 日	J0534「美羽」の巣立ちを確認
6 月 18 日	J0536「叶彩」の巣立ちを確認
6 月 20 日	J0535「ホープ」の巣立ちを確認

●令和5年生まれのヒナ

個体番号	愛称	足環		性別	備考
		左	右		
J0534	みう 美羽	黄	緑	メス	公募・光谷美依さん（大東町） 美しく羽ばたくように。
		緑	黄		
J0535	ホープ	赤	緑	オス	西小・日本語で「希望」という意味。みんなの希望をのせて飛んでほしいから。
		黒	黄		
J0536	のあ 叶彩	赤	緑	メス	西小・大きな夢や希望をもち、必ず望みを叶える充実した人生を送ってほしいから。
		黄	黄		

資料 3. ビジョン策定経過

(1) “幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりプロジェクトチーム

プロジェクトチーム（PT）で議論を重ね、専門家等からの意見聴取を経て、素案としてとりまとめた。

・会議等の開催状況

月 日	会議等	概要
9 月 14 日	第 1 回 P T	・ ビジョン策定とプロジェクトチームの設置について ・ コウノトリについて ・ ビジョン策定プロセスについて ・ 関連事業の洗い出し
10 月 1 日	第 2 回 P T	・ ビジョンの構成について ・ 調査結果について ・ 課題の整理（SWOT 分析） ・ 豊岡視察について
10 月 17 日 ～18 日	P T 豊岡視察	・ 兵庫県立コウノトリの郷公園（兵庫県） ・ 豊岡市立コウノトリ文化館（豊岡市） ・ 豊島市立ハチゴロウの戸島湿地（コウノトリ湿地ネット）ほか
10 月 26 日	第 3 回 P T	・ 豊岡視察の結果について ・ ビジョンの概要について
11 月 21 日	第 4 回 P T	・ ビジョン案について
11 月 22 日	雲南圏域ワーキング	・ ビジョンの策定について ・ ビジョン案について
12 月 10 日	第 5 回 P T	・ 雲南圏域ワーキングの結果について ・ ビジョン案について ・ 今後のスケジュールについて
2 月 25 日	第 6 回 P T	・ パブリックコメントの結果について ・ コウノトリの状況と対応について

・プロジェクトチーム構成員

	所属部課	役 職	氏 名
チームリーダー	政策企画部地域振興課	課長	板 持 周 治
サブチームリーダー	教育委員会文化財課	課長	板 垣 旭
委員	政策企画部政策推進課	主幹	松 蔭 佳 子
委員	農林振興部農政課	主幹	山 本 泰 司
委員	農林振興部農政課	主幹	小 林 弘 典
委員	農林振興部林業畜産課	主幹	小 林 誠
委員	建設部都市計画課	課長	小 村 利 之
委員	商工観光部商工振興課	統括主幹	奥 井 雅 司
委員	商工観光部観光振興課	主任主事	伊 藤 恭 将
委員	市民環境部環境政策課	副主幹	須 谷 大 輔
委員	大東総合センター自治振興課	課長	景 山 修 二
委員	教育委員会学校教育課	次長	佐 藤 慎 治
委員	教育委員会文化財課	副主幹	高 橋 誠 二
事務局	政策企画部地域振興課	主幹	鶴 原 隆
事務局	政策企画部地域振興課	統括主幹	板 垣 健 一

・11月22日開催「雲南圏域ワーキング」構成員

所属等	役 職	氏 名
山陰中央新報社 出雲総局	総局長	舟 越 幹 洋
公益財団法人 日本野鳥の会	副会長	佐 藤 仁 志
島根県農業協同組合 雲南地区本部	本部長	加 藤 博 樹
島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課	企画幹	星 野 由美子
春殖地区振興協議会	会長	石 川 幸 男
幡屋地区振興会	会長	加 藤 一 郎
赤川ホテル保存会	会長	松 田 勉
斐伊川漁業協同組合	代表理事組合長	山 根 成 二
一般社団法人 雲南市観光協会	会長	塚 本 祐 次
雲南市立西小学校	校長	和 田 邦 子
元島根県立農林大学校校長		川 津 史 郎
島根わくわくサイエンス研究会	代表	秦 明 徳

(2) 「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり学習会」の開催

ビジョンの策定に向け、コウノトリと共生するまちづくりについて学び意見交換をする場として開催し、約 50 名が参加されました。

開催日：平成 31 年 2 月 9 日（土）14：00～16：00

主 催：雲南市

会 場：チェリヴァホール 3 階大会議室

内 容：① “幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョンについて

②講演 演題：「生きものと共生する地域づくり」

～大切な視点と、コミュニティビジネスの始め方～

講師：地域力創造アドバイザー 大和田順子 様

③パネルディスカッション

地域力創造アドバイザー 大和田順子 様

春殖地区振興協議会 会長 石川幸男 様

島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課 企画幹 星野由美子 様

雲南市立西小学校 校長 和田邦子 様

④今後に向けたアイデア出し

(3) 「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン（案）」に関するパブリックコメント（意見募集）

・意見募集期間 平成 31 年 1 月 18 日～平成 31 年 2 月 18 日

・意見提出人数 5 人

・意見提出件数 10 件

雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例

令和 5 年 3 月 23 日

条例第 5 号

特別天然記念物コウノトリは、豊かな自然環境の保全や再生のシンボルとなっている鳥です。これは、コウノトリが日本国内では野生から一度姿を消したものの、多くの人々の永年の努力により繁殖に成功し、野生復帰に向けた試験放鳥が始まり、その後、各地で個体数が徐々に増えているという歴史があるからです。

雲南市においては、試験放鳥の数年後から、コウノトリが飛来する姿が見られるようになりました。そして、平成 29 年(2017 年)には、雲南市でもコウノトリの営巣が始まりました。これは、先人たちから大切に受け継がれてきた田んぼを始めとする里地里山や河川などに多様な生きものが数多く生息する豊かな自然環境があったことが大きな要因の一つと考えられています。

コウノトリの営巣は、私たちがコウノトリのこと、生態系のこと、そして生物多様性や自然環境について、より深く学び、行動するきっかけとなるだけでなく、コウノトリと共生するまちづくりによって農産品や加工品の高付加価値化やイメージの向上など、様々な恵みをもたらします。

ここに、コウノトリを保護するとともに、コウノトリと共生する豊かな雲南市にしてい くため、雲南市コウノトリの保護及び共生に関する条例を制定します。

(目的)

第 1 条 この条例は、コウノトリが雲南市(以下「市」という。)に飛来し、繁殖しやすいよう保護し、コウノトリが生息できる豊かな自然環境づくりに取り組むことにより、コウノトリと共生する市を継承していくことを目的とする。

(定義)

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) コウノトリの保護 コウノトリの生息及び繁殖を妨げないようにすることをいう。
- (2) 豊かな自然環境づくり 多様な野生動植物が数多く生息し、繁殖できる里地里山及び河川等を保全及び再生する取組をいう。
- (3) 市民等 市内に居住し、通勤し、通学し、若しくは滞在する者、市内を通過する者、市内で事業を行う者、又は市内で活動を行うものをいう。

(市の責務)

第3条 市は、コウノトリの保護に関する施策の実施に努めなければならない。

2 市は、豊かな自然環境づくりに関する施策の実施に努めなければならない。

3 市は、コウノトリ及び自然環境の状況把握に努めなければならない。

4 市は、市民等へのコウノトリの保護及び豊かな自然環境づくりの普及啓発のために学習及び交流に関する施策の実施に努めなければならない。

(市民等の責務)

第4条 市民等は、コウノトリの保護に努めなければならない。

2 市民等は、豊かな自然環境づくりに努めなければならない。

3 市民等は、市が行うコウノトリの保護や豊かな自然環境づくりの施策に協力するよう努めなければならない。

(規制及び保護)

第5条 市長は、コウノトリの繁殖期の巢の周辺等の区域への市民等の立ち入りを制限することができるものとし、その期間及び区域は、市長が別に定める。ただし、この区域内に居住し、通勤し、及び通学する者、この区域内を通過する者、この区域内で農業等に携わる者、並びにこれらの関係者は除く。

2 市民等は、コウノトリの撮影又は観察(以下「撮影等」という。)をするときは、市長が別に定める距離以内に近づいてはならない。

3 市民等は、コウノトリの撮影等をするときは、次の各号を遵守しなければならない。

(1) 無断で他人の土地に立ち入らないこと。

(2) 他人に迷惑を及ぼすおそれのある行為をしないこと。

(3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項。

(助言又は指導)

第6条 市長は、コウノトリの保護及び豊かな自然環境づくりのために必要と認めるときは、市民等に対し、助言又は指導をすることができる。

(推進体制)

第7条 市長は、毎年度、コウノトリの保護及び豊かな自然環境づくりの状況に係る市民等及び専門家等に報告し、意見を求めるものとする。

2 市は、前項の意見を基に必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(委任)

第8条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。



幸せを運ぶコウノトリと
共生するまちづくり

雲南市